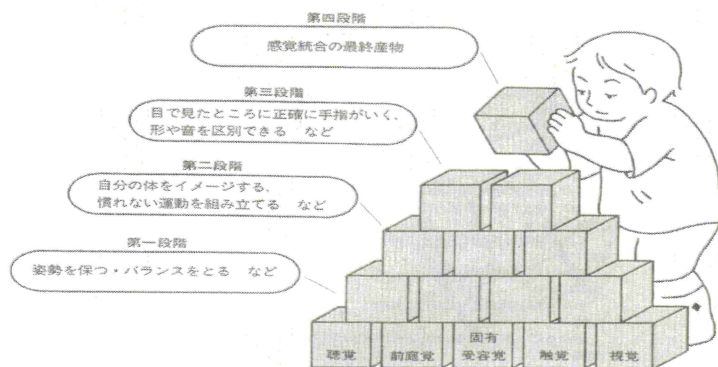


園長のつぶやき②

お世話になっています。特別号2号で、利き手の反対側の役割が大切！ というコラムを発行しました。今回は、「達達のピラミッド」について考えてみたいと思います。

感覚遊びが基本です



「いすに座れるように」「スプーンを持てるように」「ひらがなが書けるように」目に見える『できる』の裏には、たくさんの土台となる力が積み上がっています。

一番下の段にあるのは、感覚(視覚・聴覚・触覚・前庭感覚、固有覚)。ここがうまく働くことで、姿勢・バランス・目の使い方などの「体の基礎」が育ちます。

私たちが、日常の生活のなかで、姿勢や運動、動作、行動、態度をコントロールするためには、目に見える感覚の視覚、聴覚、臭覚、味覚の他に、触覚(外界との関係を調整する感覚)、固有覚(力加減や手足の動きや位置の感覚)、前庭覚(いわゆるバランス感覚)が大切です。「脳に入ってくるこれらの感覚をちょうどよく整理したり、まとめたりすること」を感覚統合と言います。

この感覚の交通整理が、できないと、「落ち着きがない」「不器用さや姿勢の崩れがある」「友達を強くたたいてしまう」「指しゃぶりや爪かみが続く」「帽子をかぶりがたがらない」などの状態像を示すことがあります。

この感覚の交通整理が、できないと、「落ち着きがない」「不器用さや姿勢の崩れがある」「友達を強くたたいてしまう」「指しゃぶりや爪かみが続く」「帽子をかぶりがたがらない」などの状態像を示すことがあります。

前号でも書きましたが、そんな子どもたちに、ブランコを思いっきり揺らしてあげる、ぐるぐる回る遊びをふんだんにさせてあげる、トランポリンを何回も跳



感覚情報の交通整理

ばせる、といった活動をしばらく続けることで、様々なトラブルが解消していくことがあります。

5つの感覚の上に、運動の組み立て・イメージ・気持ちのコントロールなどがあり、さらに「かたち」「ことば」→最終的に「学習」「思考」へとつながっていきます。

左図のように、このピラミッドが不安定で、ぐらぐらしている状態で、一番上の段だけを練習しても、なかなか身に付きません。『できない』のは、積み方の順番かもしれません。1～3段階をしっかりと積み上げていくことが、学習につながります。急がば回れです。保育園で、「生きる力」の基になる、このような遊びを重視するのは、訳があるわけです。

参考文献 「感覚統合が教えてくれたもの」 木村 順

